

「令和7年度 第2回 地下水マネジメント研究会」の開催（R7.12.8）

- 「地下水マネジメント推進プラットフォーム」の活動の一環として、令和7年12月8日に「第2回 地下水マネジメント研究会」を開催。
- 地下水関係者間における情報共有や地域への情報提供に寄与することができる地下水データベースの活用方法について紹介するとともに、災害時における代替水源としての地下水の利用を進めるため本年3月に策定された「災害時地下水利用ガイドライン」の一部改訂の状況報告や、民間の井戸活用に関するアンケート結果を踏まえた災害用井戸の重要性と課題について説明。
- 地方公共団体を中心に、関係機関、民間企業等の地下水担当者約300人が参加。

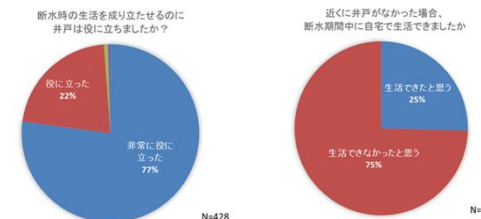
I 開催概要

1. 日 時 : 令和7年12月8日（月）13:30～15:00
 2. 方 法 : WEB形式
 3. 主 催 : 内閣官房水循環政策本部事務局
(水管理・国土保全局 水資源部 水資源政策課)
 4. 議事次第
 - (1) 地下水データベースの活用方法
 - (2) 「災害時地下水利用ガイドライン」の一部改訂の状況報告
 - (3) 災害用井戸の重要性と課題【大阪公立大学 遠藤崇浩教授】
 - (4) 情報提供：水循環政策の推進
5. 参加者 : 約300名
【市区町村、都道府県、国関係機関、民間企業、報道機関等】



水循環政策の推進

井戸は役立ったのか？



→井戸が災害後の生活サポートに役立ったことが明らか

災害用井戸の重要性と課題

II 参加者からの感想

- ・ 地下水データベースを活用すると多くの利点があることが分かり、これから地下水マネジメントを進めていく上で大変参考になった。
- ・ 能登半島地震での事例調査を通じて災害時の井戸（地下水）活用の有用性や課題について情報収集することができたことは有益であった。
- ・ 地下水を対象とした流域マネジメントの重要性、水循環アドバイザー制度について理解できた。得られた情報を今後の活動の中で活用していきたい。